

日付：2005年1月14日、サンクラウンティ 場所：プラシャーンティ ニラヤム

## あなたの真の本質は至福です それに気づきなさい

太陽は穏やかで平安に満ちているように見える  
日は短くなった  
新しく収穫した穀物で家々を満たし  
愛に満ちたサンクラウンティの祭りがやって来た

(テルグ語の詩)

サンクラウンティ（「神聖な変化」の意。収穫祭）はすべての祭りの中で、最も重要です。実際には、人類にとって毎日が祭りです。しかし人々は、無知であるがゆえに、何日かを祭日として区別し、その他をありきたりの日としています。多くの人がこのサンクラウンティの祭りの意義を知らずに祝っています。この日、この地域の人々は、雌牛や雄牛に敬意を払います。雄牛は色々な飾りと布で美しく飾られ、往来を回ります。それらはガンギレッドウール（聖なる牛たち）と呼ばれます。これだけでなく、雌牛と雄牛の間に象徴的な婚礼が執り行われます。飾り付けた雄牛を連れて回る人はガンギレッドウダスと呼ばれています。彼はこの行事のために特別な衣服を身につけます。このガンギレッドウダスの姿は子どもたちを魅了します。兄は優しく弟を誘い、共にこの聖なる牛とその飼い主を見に行きます。

おお、かわいい弟よ、ガンギレッドウダスがやって来る  
おいで、さあ見に行こう  
彼は大きな銀のメダルを首にかけ、腰には帯を締めている  
飾りのついた杖を持ち、額には特別な印をつけている  
彼は豪華に盛装した雌牛と雄牛を連れて来て婚礼をする  
さあ、婚礼の儀式を見て贈り物を捧げよう

(テルグ語の詩)

ガンギレッドウダスは雌牛と雄牛を連れて来て、牛たちをシーターとラーマと呼びます。牛たちは、飼い主の持つ杖の動きに従って、決められた通りに返答するように訓練されています。飼い主は雌牛に、「おお、シーター！あなたはラーマが好きですか？」と聞きます。雌牛は教えられた通りに、「いいえ」と首を振ります。そこで飼い主は雄牛に、「おお、ラーマ！あなたはシーターが好きですか？」と聞きます。雄牛も同じく、「いいえ」と答えます。このように、二頭とも最初はこの結婚を承認せず、あとになって結婚に同意します。そこで、ガンギレッドウダスは象徴的なシーターとラーマの結婚式を執り行うのです。

サンクラーンティ祭は動物や鳥さえにも計り知れない喜びを与えます。これは農民にとって、たいへん重要な祭りです。この日、農夫は新しく収穫した穀物を家に持ち帰り、重労働の成果を喜びます。このように、農夫から国王まで、すべての人が喜んでこの祭りを祝います。呼び名は違っても、この祭りは宗教や国の違いを超えて、いたる所で祝われます。この日は、ウッタラヤーナ（北に向かう太陽の動き）と呼ばれる神聖な期間の始まりです。ウッタラヤーナはすべての人に至福を与えます。

すべての人が至福を得ることを切望しています。事実、これは人生の目的そのものです。もし、至福を体験しなければ、人生は何の意味ももちません。至福こそがあなたの目標なのです。

ニッティヤーナンダ、パラマ スカーダム、  
ケーヴァラム グニャーナムルティム、ドワンドワーティータム、ガガナ サドゥリシヤム、  
タットワマシヤーディ ラクシヤム、エーカム ニッティヤム、ヴィマラム、アチャラム、  
サルヴァデー サクシブータム、バーヴァティータム、トゥリグナラヒタム

神は永遠の至福の具現者である  
神は完璧な英知であり、唯一無二の存在にして、  
対立する両極を超え、空のように大きく広がり、  
タットワマシ（汝はそれなり）という大格言によって示される目標であり、  
永遠で、無垢で、変わることなく、  
知性のすべての作用の照覧者であり、すべての精神的状態を超え、  
サトワとラジャスとタマス（浄性、激性、鈍性）の三つのグナを超えている

伝統に従って、新婚の夫は妻の実家を訪れ、この祭りを祝います。

サンクラーンティは祭りの中の祭りであるがゆえ  
おお、新婚の夫よ、妻の実家を訪れなさい  
行って、義理の兄弟姉妹と楽しく戯れて過ごしなさい  
家族や近所の人々は皆、あなたを愛と好意をもって迎えてくれるだろう  
(テルグ語の詩)

何年もの間、妻の実家を訪れていない者でさえ、サンクラーンティ祭のためには行きたいと熱望します。両親は義理の息子に、できる限りのもてなしをし、喜ばせようと務めます。両親は義理の息子に新しい衣服を与え、美味しい食事をごちそうするために借金までします。一家全体が至福のうちに時を過ごします。しかし、今日ではサンクラーンティの祭りの精神はどこにも見出すことができません。夫は義理の両親に喜びを与える代わりに、些細なことで口論をします。

サンクラーンティは、人間や、鳥や、動物たちにも同じように喜びを与えます。バーラタ（イ

ンド)の人々だけでなく、他の国の人々も、呼び名は違いこそすれ、この祭りを祝います。この季節は涼しい風が吹き、農夫は収穫した穀物を家に持って帰ります。農夫はすべての悩みや心配事を忘れ、リラックスして過ごします。テルグ語で、「チンタ(悩み)のない者はシャンタ(市場)の中でもゆっくり寝ることができる」という言い伝えがあります。

すべての人が悩みを乗り越える努力をし、終わることのない幸せを楽しむべきです。これがサンクラーンティのメッセージです。人々は自分なりにこのメッセージを理解していますが、この祭りの真の重要性を理解する者はほとんどいません。色々な祭りがある中で、女の人たちはこの祭りに特別な地位を与えています。人々がこの季節に味わい楽しむ幸せは特別なものです。

人は幸せを味わうためさまざまな努力をします。幸せになりたくない人は世界中でほとんどいないでしょう。しかし、幸せは外から得られるものではないことを理解しなければなりません。幸せは心<sup>ハート</sup>の中から生じます。心が至福の源です。私たちが楽しむ外側の世界の幸せは、単に、内なる幸せの反応、反映、反響でしかありません。この真理を理解できる人は非常に限られています。今日、人が体験する外見上の喜びは人工的で一時的です。心の中から湧き出る幸せのみが永遠のものです。

学生諸君！

いかなる人にも、妨害するような行動をとってはけません。祭りは、幸せを体験し、幸せを他者と分かち合うためのものです。幸せは市場で買うことも、世間的な手段で獲得することもできません。幸せは内から現れなければなりません。自分自身の喜びのために他者の気持ちを傷つけることはバーラタ(インド)の人々の本質ではありません。他者の気持ちを尊重し、それにふさわしい行動をとらなければなりません。自分の幸せは仲間と分かち合うべきです。豊かで気前の良いプシュヤ月(インド占星術に基づく月の呼び名)を歓迎し、あなたの内なる喜びを現し、他者と分かち合っサンクラーンティを祝いなさい。クランティとは変化という意味です。それは、悲しみから幸せへ、不安から平安へ、苦痛から喜びへの変化を意味します。サンクラーンティはすべての人に対して平等に喜びをもたらします。それが皆が期待を込めてサンクラーンティの到来を待ち焦がれる理由です。鳥や動物たちでさえサンクラーンティの到来を喜びます。農民が収穫した穀物を家に持ち帰ると、鳥はその一部をご馳走になり、楽しそうにさえずりながら喜びを現します。近所の人たちは、重労働の結果大きな収穫を得た農夫に祝いの言葉を述べます。

学生諸君！

すべての祭りの意味を理解し、真の精神でそれを祝うのは非常に重要なことです。もし、それらの意味を深く掘り下げて理解しないのであれば、私たちは本当の幸せを楽しむことはできません。永遠の至福を体験するためには、肉体を犠牲にする心構えをもっておくべきです。肉体は五大元素の組み合わせであり、心<sup>マインド</sup>は単なる思考の束にすぎません。肉体に執着したり、心の移り変わりを追いかけるべきではありません。カーマ、クロダ、ローバ、モーハ、マーダ、マツァリヤ(欲望、怒り、貪欲、溺愛、高慢、嫉妬)という邪悪な性質を追い払い、内なる平安と至福を現わしなさい。人は、平安と至福を育てる代わりにそれを破壊しています。そして、些細なこ

とにさえ、不安につけ入る余地を与えています。アシャーンティ（不安）とプラシャーンティ（至高の平安）のどちらも外側から得るものではありません。人々は、「私は平安が欲しい」と言います。平安はどこにあるでしょう？ 平安は外にあるものですか？ もし、平安が外で見つけるものであれば、人々はどれだけお金を使っても購入することでしょう。しかし、外では断片（pieces／ピース）しか見つけることができません。真の平安（peace／ピース）は内にあるのです。

牛乳は沸かしても、水で薄めても白い色をしています。白は純粹さを象徴します。牛乳の白さが変わらないように、あなたの<sup>ハート</sup>心も、試練や苦難をものともせず、つねに純粹で、明るく、平安に満ちていなければなりません。悲しみを克服し、邪悪な性質である怒り、憎しみ、妬みを抑制して、内なる至福を表しなさい。もし、欲望が満たされなければ、あなたは怒ります。ですから、欲望は怒りの根源であり、それらは第一番にコントロールされるべきです。

愛の化身である皆さん！

終わることのない至福はすべての人のゴールです。あなたは、問題に見えるようなものからさえ幸せを見出すべきです。よそに幸せを探す必要はありません。幸せは絶えずあなたとともに、あなたの内にあります。あなたが幸せを実感することができないのは、幸せの真の意味が理解できていないからです。あなたは、幸せはお金や、豊かさや、物質的な快適さにあるという幻想を抱いています。ひとたび真の幸せを味わえば、あなたはこの世的（物質的）な所有物を欲しがらなくなるでしょう。真の幸せは人の<sup>ハート</sup>心の深い所から沸き上がって来ます。

牛乳を鍋で沸かすと、ゆっくり表面が上がって来ます。その中に水を数滴振り入れると、牛乳の表面は下降します。それは水と混じることによって牛乳の価値が無くなるからです。これと同じように、悪い仲間と交わると、人も価値を失ってしまいます。もし良い仲間の中にいれば、人はつねに至福の内に入られます。人と友情を築く前に、その人の人格をよく調べなさい。

気づいている人も気づいていない人もいるかも知れませんが、私はつねに至福の状態にいます。私には心配も困難もまったくありません。私に、「スワミには何か心配がおりますか？」と聞く人がいます。私は心配とはどんなものかを知りません。私は一度も心配を体験したことはありません。私はつねに至福に満ちています。あなた方はつねに至福を考えるべきです。そうすれば、あらゆる所に至福を見ることでしょう。至福の中にいる体験は、砂糖より甘く、カード（ヨーグルト）より味わい深く、蜂蜜より甘いものです。困難や、近しく、愛する者の死去に直面すると、悲しく思います。しかし私は、いかなるときも、このような出来事を悲しく思うことはありません。それらは雨雲のように、来ては去って行きます。幸せと悲しみは代わる代わるやって来ます。至福を深く思っていれば悲しみに気をとられることはありません。

愛の化身である皆さん！

あなた方一人ひとりの内に愛は存在します、しかし、あなた方はその愛をこの世的（物質的）な関係に向けています。あなた方はいまだ、真の愛を味わったことはありません。神を心の底から愛しなさい。それが真の愛です。人々は来ては去りますが、神は来ることも去ることもありま

せん。神はつねに存在します。悲しみに巻き込まれたときは、幸せを思いなさい。確実に幸せを体感できるでしょう。

至福は確かに人の心<sup>ハート</sup>の中で起こっています。私たちがどこにしようと、どのような立場にしようと、私たちの根本的な性質は至福です。時に、「スワミは今まで悲しみを体験されたことがおありですか？」と私に尋ねる人がいます。私はこの質問を面白いと思います。実際、どうして私が悲しみを体験しなくてはならないのでしょうか？ 肉体に関して悲しく思うべきなのでしょう？ その必要はありません。この肉体はつねに健康で活動的です。人間の心<sup>マインド</sup>は気まぐれな性質をもっています。肉体は水の泡のようなもので、心は気の狂った猿のようなものです。心は水の泡のようなものですから、心に従ったり、肉体に頼ったりしてはいけません。そもそも、なぜ、一時的な肉体や心に対して悲しく思う必要があるのですか？ 実は、至福こそが私たちの永久的な本質的な性質です。

愛の化身である皆さん！

至福を体験することを助ける愛を培いなさい。「一日を愛で始め、一日を愛で満たし、一日を愛で終えなさい。それが神に至る道です」もし、これができれば、あなたは悲しみや困難に悩まされることはありません。心<sup>ハート</sup>は至福がある所です。真の至福は純粋で愛に満ちた心からあふれ出します。このような至福を体験できるよう務めなさい。それ以外のどのような幸せも一時的なものです。

愛の化身である皆さん！

子どもたちはつねに幸せで喜びに満ちています。子どもには何も抑制するものはありません。だれかが子どもに微笑むと、子どもは無邪気に微笑み返します。子どもはすべての人が生まれもっている至福を体験します。幸せと至福は異なったものです。一般的に、「幸せ」は一時的です。幸せは来ては去ります。至福は内から湧き上がるものです。至福は、神と一つになった結果、心<sup>ハート</sup>から湧き上がるのです。もし、神と離れていると感じるならば至福を体験することはできません。

愛の化身である皆さん！

皆さんは将来、このような至福を豊富に体験しなければなりません。もう一度念を押しておきますが、年齢も、地位も、物質界のいかなるものも、このような至福を運んで来ません。ただ純粋で愛に満ちた心<sup>ハート</sup>だけが至福の源です。サンクラーンティの聖なる祭りは心<sup>ハート</sup>の変化や変容を象徴します。それは変わることのない永遠の原理に気づくことから湧き出た至福の体験です。神が唯一の不変の原理です。神はつねに至福に満ちています。事実、神は至福の化身です。

たとえば、これは白い布です。色に浸すか、色を塗って、初めてこの布に何らかの色がつかます。同様に、あなたの根本的な本質は至福です。もし、あなたが悲しみを体験しているとすれば、あなた自身が悲しみに浸ったからです。あなたがどこにいようと、つねに幸せで至福に満ちていなければなりません。例をあげると、皆は私に、「ハッピー バースデー（お誕生日おめでとうございます。幸せな誕生日になりますように）」と祝いの言葉を言います。これについて、私は聞

きたいことがあります。誕生日を祝うことに真の幸せがあるのでしょうか？ 私はつねに幸せです。それなら、一年の内、ある決まった一日を「ハッピー バースデー」として祝うことに、どんな意味があるのでしょうか？ これは借りて来た言葉の表現にすぎません。実際、至福は私たちの真の本質です。私たちは見せかけの表現で真の本質を偽装して、それが真の至福であるかのように満足しています。これは正しい取り組みではありません。

愛の化身である皆さん！

あなたは愛に満ちています。実際、あなたの<sup>ハート</sup>心は愛にあふれています。しかし、あなたはこの愛が外にあふれて表れることを邪魔しています。本来、愛には障壁や障害はまったくありません！ 絶え間なく、深く神を思い続けなさい。そうすれば、あなたは、肉体的にも、精神的にも、霊的にも、つねに幸せでいられます。

残念なことに、今日、あなたは数々の欲望のせいで、このような至福の神聖な性質を失っています。もしこうした欲望を切り離すことができれば、あなたはつねに至福に満たされているでしょう。たとえば、ここに白い布があります。白さがこの布の本質です。しかし、いつも使っていることにより、この布は汚れます。同じように、あなたの<sup>ハート</sup>心もつねに純粋で、明るく、至福に満ちています。しかし、心は欲望によって汚れます。ですから、愛を培い、心をつねに純粋にしておきなさい。そうすれば、あなたは人生のいかなる瞬間においても至福に満たされるでしょう。しかし、あなたは、至福の内なる本質を忘れてしまい、つねに、悩みと不幸に浸っています。

だれかに、「御機嫌いかがですか？」と聞かれると、あなたは、「まあ、まあです」と答えます。これは正しい態度ではありません。あなたは、「私は幸せです」と答えなければなりません。人生において私たちは何らかの浮き沈みに遭遇するかも知れませんが、それが私たちの根本の本質が至福であることに、影響を与えてはなりません。皆さんは私を注意深く観察しましたか？ 私がどれほど至福に満ちていることでしょうか！ 今だけでなく、私はつねに至福に満ちて、至福があふれ出しています。事実、私がいる所では、あなた方もこのような至福を体験することができます。しかし、もしあなたが、邪悪な<sup>マインド</sup>心や、邪悪な思いや欲望をもって私の所へ来れば、あなたはこの至福を体験することはできません。それらは人間の弱さです。ですから、あなたはこれらを正すよう心掛けなければなりません。

学生諸君！

諸君は決して落胆してはいけません。たとえ試験に落ちたとしても、落胆するべきではありません。おそらく自分の答案がうまく書けず、そのために落ちたのだとあきらめなさい。しかし、試験に落ちたことによって、決して滅入ったり、落胆したりしてはいけません。同じように、あなたの不幸の原因を自分に問いかけてごらんください。現在の自分の状態は、自分自身の思いが原因になっていることに気づくでしょう。ですから、思いを正しなさい。そうすれば皆さんは再び幸せになります。悲しみや困難は通り過ぎる雲のようなものです。決してそれらに重きを置いてはなりません。つねに幸せで喜びにあふれていなさい。平安と幸せはあなたの本質です。実際、あなたの本質は至福なのです。

愛の化身である皆さん！

今日は神聖なサンクラウンティの祭日です。実は、去年と比較して今年は特に重要です。先月、多くの人々が津波によって言語に絶する不幸と苦難に見舞われました。人の邪悪な行為こそがこのような大災害の原因となっているのです。ですから、私はあなた方に間違った行動や邪悪な行為にふけらないように忠告します。今年は去年に比べて、より多くの災難が起こる可能性があります。しかし、私たちはそのような災難に心を奪われることなく前向きに進まなければなりません。これらはすべて通り過ぎる雲のようなものですから、これらの出来事に心を乱される必要はありません。臆することなく、勇気をもってこれらに立ち向かいなさい。

先月起きた津波の災害は、実は人によって起こったものです。これは、まったく神の意志などではありません。しかし、人は、このような困難は神が人に下したものだと感じます。絶対にそのようなことはありません！神は人につねに幸せを与えます。神は怒りも憎しみも持っていません。神の本質は愛です。では、世界にはなぜこのような苦悩や困難があるのだろうかという疑問が生じます。厳密にいうと、幸せは、苦悩がなければ何の価値もありません。人は何らかの困難を経験しなければ、幸せを体験することはできません。幸せと苦悩はお互いにかみ合っています。これらのどちらも、もう一方がなければ存在することができません。

喜びと苦痛、善と悪は共存しており、だれも切り離すことはできない  
喜びと苦痛、善と悪は、どちらか一つを切り離しては見出すことはできない  
困難が実を結んだとき、喜びが現れる

(テルグ語の詩)

神は自分が創った、世界に住むいかなる生き物にも痛みを与えるようなことはしません。すべての悲しみと困難は人間自身が作っているのです。神はすべての生き物の保護者です。神はすべてのものに平安と幸せを与えます。「ローカー サマスター スキノー バヴァントゥー」(世界のすべての人が幸せでありますように)。これが神の意志です。そうであれば、どうして神が人類に対して苦悩をもたらすでしょう？あなたは、神の意志を理解できないために、神が苦悩をもたらすのだと言って神を非難します。もしあなたが神の意志を知ることができたとすれば、すべてはあなたのためであることに気がつくことでしょう。私たちは皆、至福の化身です。毎日、朝から晩まで、至福を体験し、他者とそれを分かち合いなさい。そして初めて、至福はより大きなものとなります。

愛の化身である皆さん！

このサンクラウンティはプレーマ(愛の)サンクラウンティであり、アーナンダ(至福の)サンクラウンティです。ですから、このサンクラウンティ祭を歓迎しなさい。至福の化身である神を歓迎しなさい。

神は、「カルナニデー(慈愛の宝庫)」とか「プレーマスワルーパ(愛の化身)」という呼び名には満足していません。神はつねに至福に満ちています。皆さんは際限のない欲望を満たしてもら

おうとして神に祈るべきではありません。ただ、「おお、神よ！あなたの至福を私に分けてください。私を至福で満たしてください」と祈りなさい。

決して神をニルダーヤ（慈悲のない者）とさげすんではいけません。神がなすことは何であれ、あなたのために思ってなされています。あなたが経験する悲しみや困難ですら、あなたのためになるのです。それらは幸せと至福の前奏曲です。もし、このような前向きな見解を培えば、あなたはつねに至福に満たされているでしょう。あなたの幸せをすべての人と分かち合いなさい。これに反して、今日の人々は、幸せは自分のものにして、苦しみは他者に与えようとしています。これは私たちがすべきことではありません。「苦悩を克服し、内なる喜びを表す」——これこそが、人が実行しなければならない霊的サーダナ（修行）です。困難や悲しみや不安に直面したとき、決して気にしてはいけません。それらは無視しなさい。あなたはつねに愛の化身なのです。もし皆さんがこの真理を深く思っていれば、何ごとあなたを悩ますことはありません。

愛の化身である皆さん！

変化の象徴であるこのサンクラウンティ祭があなたの<sup>ハート</sup>心に変容をもたらし、すべての人に至福を与え、あなたがつねに幸せで、繁栄し、快活な一生を送ることができますように。事実、人間はアーナンダマヤ（至福に満ちる）という名で呼ばれます。人間性は神性へと高まるように意図されているのです。

学生諸君！

ここで皆さんが演じたドラマや寸劇はすべて良くできました。もし正しく分析するとしたら、良くないことはどこにあるでしょう？ それはあなたの<sup>マインド</sup>心の中にあります。良くないこと（悪いこと）を考え、悪い思いを他者に分けてはいけません。至福こそが人間の真の糧です。人はつねにその至福という食物を食べたいと願っていなければなりません。あなたの、神への信頼を堅固で揺るぎないものにしなさい。神の愛のみが永遠です。もし、その愛を確保することができれば、あらゆる形の幸せがあなたの元へやって来ます。

（バガヴァンは「ハリ バジャナ ビナー スカ シャーンティ ナヒ」のバジャンで御講話を締めくくられました）

出典：[http://www.sssbpt.org/Pages/Prasanthi\\_Nilayam/Sankranti\\_Discourse.htm](http://www.sssbpt.org/Pages/Prasanthi_Nilayam/Sankranti_Discourse.htm)  
翻訳：サティア サイ出版協会